

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：障害者福祉費

事業名 点訳・音訳奉仕員養成事業費（国補）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

健康福祉部 障害福祉課 社会参加推進係 電話番号：058-272-1111（内2614）

E-mail：c11226@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,140千円（前年度予算額： 6,140千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,140	3,070	0	0	0	0	0	0	3,070
要求額	6,140	3,070	0	0	0	0	0	0	3,070
決定額	6,140	3,070	0	0	0	0	0	0	3,070

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

視覚障がい者の教養の向上、自立した生活の支援を行うため、点訳音訳奉仕員の養成、歩行訓練の支援、中途失明者の緊急生活訓練を実施。

【歩行訓練士派遣事業】

視覚障がい者の交通事故を端緒とした「視覚障がい者に対する交通事故防止策と行動支援策」について問われ、視覚障がい者の行動支援の必要性が再認識された。

今後、歩行訓練に対する需要が増えていくことが想定されたため、歩行訓練の実施回数を継続していかなければならない。

また、歩行訓練自体について、より視覚障がい者当事者のQOLの向上を図るため、実施内容を継続し、電子白杖やスマホアプリを活用した歩行訓練や性別ごとに配慮した訓練を実施する。

（2）事業内容

- ・点訳奉仕員養成事業、音訳奉仕員養成事業

視覚障がい者の読書範囲を拡大し、文化教養の向上を図るため、文字を点字化及び音声録音するボランティアを養成

- ・ 中途失明者緊急生活訓練事業
 自立生活に必要な前訓練としての感覚訓練、点字指導
- ・ 歩行訓練士派遣事業
 マンツーマンによる白杖使用訓練
 - 電子白杖、スマホアプリを使った訓練追加。
 - 女性歩行訓練士での対応

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1/2 県 1/2 (地域生活支援 477 千円・地域生活促進 2,593 千円)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	6,140	奉仕員の養成及び生活訓練、歩行訓練の派遣等を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 点訳奉仕員養成事業 330 千円 ・ 音訳奉仕員養成事業 624 千円 ・ 中途失明者緊急生活訓練事業 1,038 千円 ・ 歩行訓練士派遣事業 4,148 千円
合計	6,140	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

視覚障がい者の社会参加を目的とした事業は今後も必要

(2) 事業主体及びその妥当性

視覚障がい者の社会参加を目的とした事業は広域的に行うため、県で行う必要がある。

事業評価調書

- | | |
|-------------------------------------|--------|
| <input type="checkbox"/> | 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 各種事業を実施することにより、視覚障がい者への助言や訓練を行うことで社会参加や自立を促進し、点訳・音訳奉仕員の養成により文化・教養の向上につなげる。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
点訳奉仕員養成講座 修了者数	— (H20)	8名 (H29)	12名 (H30)	13名 (R1)	15名 (R5)	86.7%
音訳奉仕員養成講座 修了者数	— (H)	15名 (H29)	19名 (H30)	13名 (R1)	15名 (R5)	86.7%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 <点訳奉仕員養成>
 岐阜教室 6月～翌3月までの全28回
 <音訳奉仕員養成>
 岐阜教室、山県教室 6月～翌3月までの全28回
 <中途失明者緊急生活訓練>
 希望する中途視覚障がい者に対し、面接相談や点字学習指導、パソコン訓練、日常用具の相談・指導、生活訓練を実施
 <歩行訓練士派遣>
 歩行・生活指導を希望する視覚障がい者38名に対し面接を行い、それぞれの目標に応じて歩行訓練（181回）を実施

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 <点訳奉仕員養成>受講者 18名、修了者 13名
 <音訳奉仕員養成>受講者 15名、修了者 13名
 <中途失明者緊急生活訓練>相談 96名 142回、点字学習 3名 30回

パソコン訓練 31名 126回 日常生活用具相談・指導 88名 138件 <歩行訓練士派遣>利用件数 181件（個別訓練）

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価)	本事業は、国庫補助事業である地域生活支援事業の都道府県事業に位置付けられており、点訳・音訳奉仕員を養成することにより、視覚障がい者の文化教養の向上が図られている。 ○
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価)	点訳及び音訳奉仕員の養成事業について、各年度により受講者数のばらつきはあるものの、一定以上の受講者が修了し、登録されている。 ○
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価)	県の広報紙に養成講座の案内を掲載することで、広く募集を行っている。 ○

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 養成講座により登録された奉仕員は、視覚障がい者が利用する点訳や音訳サービスの担い手となるため、質の高い技術が求められる。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 視覚障がい者の文化・教養の向上や、安全かつ容易に外出できる環境作りなど、自立した生活の支援を行うため、今後も事業を継続し、更なる視覚障がい者の福祉の向上を図る必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	【○○課】
--	-------